

| 3DインテリアI | | | | | |
|--|--|--|---------|------|------|
| 担当教員 | 木戸 久美子 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | インテリアデザイン科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | <p>コーディネーターの実務に必要な、プレゼンテーションの必要性と技法を理解し、コンペ作品等に対応する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. ポートフォリオの制作を中心に見せ方、描き方及び、就活に活かす作品を作る。 3. 条件に則したプレゼンツールの進め方の基本を理解する。 4. コンペに応募し作品を作成、評価、解説を行う | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解します。3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアコーディネーターの基本知識とセンスを身に付け、新卒力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学びます。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ①超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ②3Dインテリアデザイナー-Neo3 | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | ポートフォリオの制作 ①ポートフォリオの表紙制作 ②課題のブラッシュアップ ③就活に活かせる作品集としてまとめる | 方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の演習。レイアウトや立体構成の基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 2 | 高層ビル・風防記念館見学 ①新潟市内の歴史的建築物と、茶の湯の文化について学ぶ | 方法：実際の歴史的建築物を見学し、今後の授業理解の一助とする。また、時代背景に則した文化を理解するとともに、家具、装飾の機能を知る。 見学前：現場で見るべきポイントと目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：現場研究と、服装、マナー等の指導 | | | |
| 3 | 第16回 インテリアデザインコンペ参加 JAPANTE X 2019 ①テーマを理解し、作品の核となるキーワードを見つける。 ②作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える。 ③付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める。 ④作品で使用する、インテリアエレメント (要素) を決める。 ⑤インテリアエレメント (要素) を選定する。 ⑥3Dパース制作 ⑦プレゼンボード制作 | 方法：コンペ応募作品制作を通して、卒業制作に向けてテーマに則したオリジナル作品の制作を行う。 各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。 課題分析からプレゼンテーションまで、全体構成等の基本的な方法や技術を学び、プレゼン発表までは個人・グループなどの個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習 | | | |
| 4 | 課題最終締切 7/23 (火) | プレゼンボード83×2枚完成させ提出する。 | | | |
| 5 | 課題発表 | 講評・解説 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 授業への取り組み姿勢、演習・課題内容、出席率を総合的に判断し評価します。 取組姿勢30% 演習・課題60% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | デザインコンペへの参加を通じ、インテリアデザインの表現と、新卒力のあるポートフォリオ制作を行う。 後期の卒業制作に向けて、プレゼンボード、プレゼン資料作成のノウハウを学び、トレンドの分析力、マーケティング要素、条件の整理と考え方の流れを意識して取り組むことがポイントとなる。企画内容の基本を固め、各作業工程の演習をしっかり積み上げることを重視し作品精度を上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる。 | | | | | |

| 3DインテリアII | | | | | |
|--|--|---|---------|------|------|
| 担当教員 | 木戸 久美子 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | インテリアデザイン科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | <p>今まで学習してきたインテリアデザインの知識と技術、考え方、などの集大成としてテーマのコンペ作品の制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマにもとづいたイメージの考え方や作成の手順を説明する。 2. 条件と規制に則したデザインと表現方法の進め方を再認識させる。 3. 説明→課題演習→チェックフィードバックを繰り返すことで作品精度を上げる。 4. 最終的にコンペのオリジナルデザインを作成し、プレゼンを行う。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | インテリア業務と流れとプレゼンテーションの関係を理解し、新卒力のあるプレゼンボードをつくるための手法について学ぶ。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ①超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ②3Dインテリアデザイナー-Neo3 | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 演習1 テクスチャの作成 ①画像ファイル (BMP、JPEG、GIFファイル) から新規にテクスチャの作成する。 | 方法：作成方法の説明と解説し、課題の作成。 制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 2 | 演習2 ケーキショップ併用住宅 【敷地の作成】 ①平面図を下絵に開取りを作成する。 ②CADデーターを読み込み、敷地を作成する。 【開取りの作成】 ①エスキスで作成したプランから、2階建住宅の開取り作成する。 【インテリアエレメントの選定】 ①家具、照明、窓装飾、インテリア雑貨等、イメージに合わせた選定 ②選定したインテリアエレメントの素材、サイズ、価格、画像をプレゼンボードデザイナーを使いボードにまとめる。 【3Dパースの作成】 ①インテリアスタイルに合わせた3Dパースを作成する。 【プレゼンボードの制作】 ①開取り図、3Dパース、商品詳細、商品画像を含めた、プレゼンテーションボードを作成する。 | 方法：各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習 | | | |
| 3 | 課題発表 | 演習2 (ケーキショップ併用住宅) について発表する。 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 授業への取り組み姿勢、演習・課題内容、出席率を総合的に判断し評価します。 取組姿勢70% 演習・課題内容20% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | 3Dインテリアデザイナー-Neo3の基本操作を学びながら、インテリアエレメントやプレゼンテーションについて幅広く学習させる。2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。テーマや、コンセプトについては必ず、担当教員との話し合いで確定させ、情報密度を上げて精度を高める。 個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる。 | | | | | |

| 3DインテリアIII | | | | | |
|--|---|--|---------|------|------|
| 担当教員 | 木戸 久美子 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | インテリアデザイン科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | <p>コーディネーターの実務に必要な、プレゼンテーションの必要性と技法を学び、3Dインテリアデザイナーの基本操作を習得しコンペ作品等に対応する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. プレゼンボードの制作を中心に見せ方、描き方及び、コンペに活かす作品を作る。 3. 条件に則したプレゼンツールの進め方の基本を理解する。 4. コンペに応募し作品を作成、評価、解説を行う | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解します。3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアコーディネーターの基本知識とセンスを身に付け、新卒力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学びます。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 3Dインテリアデザイナー-Neo3 | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | ソフトセットアップ ①プログラムのセットアップ及び、ライセンス認証の実行 ②操作画面・機能紹介 | 方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。 図形や画像の活用方法が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。 | | | |
| 2 | インテリアエレメントについて講義 ①家具の配置、 ②照明計画、 ③ウィンドトリートメント *家具やエレメント配置の際の、種類や特徴・機能、配置するときに検討すべき寸法の知識を学ぶ。 | 方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 3 | 基本操作 ①演習1：空間モデリング (マンション) ・平面図から空間を作成する。 ・開取りの作成・カーテン・家具住宅設備の配置 | 方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 4 | 第16回 インテリアデザインコンペ参加 JAPANTE X 2019 ①テーマを理解し、作品の核となるキーワードを見つける。 ②作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える。 ③付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める。 ④作品で使用する、インテリアエレメント (要素) を決める。 ⑤インテリアエレメント (要素) を選定する。 ⑥3Dパース制作 ⑦プレゼンボード制作 | 方法：コンペ応募作品制作を通して、卒業制作に向けてテーマに則したオリジナル作品の制作を行う。 各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。 課題分析からプレゼンテーションまで、全体構成等の基本的な方法や技術を学び、プレゼン発表までは個人・グループなどの個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習 | | | |
| 5 | 壁紙集/柱・梁 ①開口部や壁紙、 2R壁、 ③ニッチなど壁装飾の作成 | 方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 6 | 床/天井編集 ①スロープ、ステッチなどの床編集、 ②コーナー、コブ、アーチ照明、 ③勾配・折上げ天井の作成 | 方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。 | | | |
| 7 | コンペ作品発表 ①プレゼンシートを完成 | プレゼンシートを完成させ、コンセプトや内容について発表し、講評・解説 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 授業への取り組み姿勢、演習・課題内容、出席率を総合的に判断し評価します。 取組姿勢30% 演習・課題60% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | 3Dインテリアデザイナー-Neo3の基本操作を学びながら、インテリアエレメントやプレゼンテーションについて幅広く学ぶ。デザインコンペへの参加を通じ、インテリアデザインの表現と、新卒力のあるプレゼンボード制作のスキルを養う。 トレンドの分析力、マーケティング要素、条件の整理と考え方の流れを意識して取り組むことがポイントとなる。企画内容の基本を固め、各作業工程の演習をしっかり積み上げることを重視し作品精度を上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる。 | | | | | |